

# 17 我が班の安全活動について

(30万時間無災害記録を目指して)

古川営林署 ○榎嶺 高橋 昭雄  
 榎嶺 高橋 登久志  
 森林官 佐々木 智 義

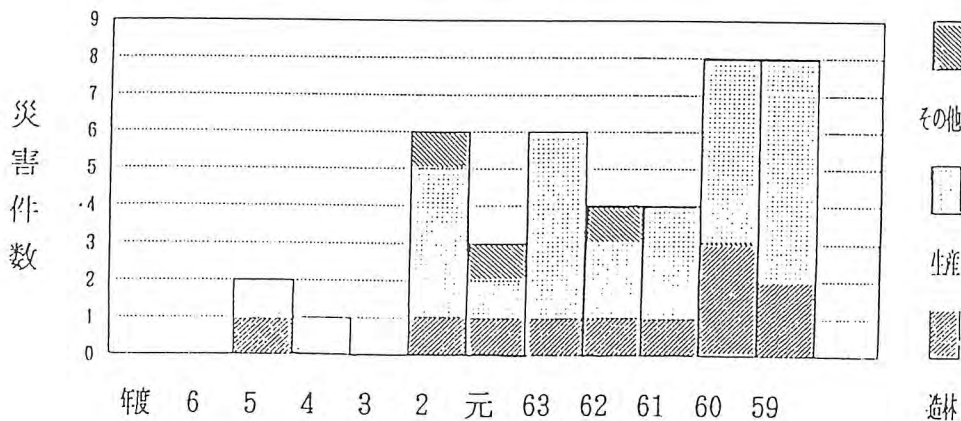
## 1 はじめに

古川営林署は平成5年度以前10年間の平均公務災害件数が、年平均約4件発生しており、過去を振り返っても安全重点営林署として、平成3年、元年、昭和61、60、59年度というように、不名誉な指定を受けてきたところである。(図-1)

その後、平成3年度については無災害を達成したが、4年度1件、5年度2件の災害発生と推移し、現在は504日の無災害記録を更新中である。

その中で、当鳴子森林事務所は、昭和55年4月以来、平成7年1月末迄の間、無災害22万時間を達成していることから、もう一度原点に立ち返って、班員一丸となり安全活動に取り組んでいるところであり、その安全活動の一端を紹介し、今後の無災害記録30万時間達成に向けて邁進して行きたいと考え発表に至った次第である。

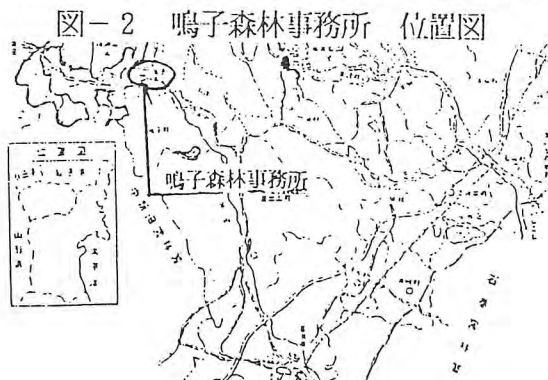
図-1 過去の公務災害発生状況 古川営林署



## 2 森林事務所の概要

我が班、鳴子森林事務所班は、古川市から北西に約3.5kmの所に位置する湯の町、こけしの町といわれる鳴子町に所在している。(図-2)

管轄面積は3800ha程あり、ブナを主体とした天然林が約75%、スギが主体の人工林が約25%となっている。事業内容は多岐にわたり、春の地拵え植付けから、下刈、



除伐，冬期は除伐Ⅱ類，保育間伐を実行している。その他に，収穫調査、境界巡検，マツクイムシ防除等があり、平成6年度は森林官を中心に，夏山は基職5名，定期3名の8名体制，冬山は基職4名体制で事業を実行しているところである。

### 3 鳴子森林事務所における災害発生状況

当森林事務所の過去の公務災害については，昭和49年11月に収穫調査で笹の葉が目刺さった災害が1件，昭和55年の4月には休憩所の設営時に，屋根から転落するという災害が1件発生し，「失明」と「休業8カ月」という重傷災害になる，痛ましい災害が発生した。

この2件の災害発生により本人，家族の苦痛はもとより，職場内の人間関係も気まづくなったことなどもあったことから，それ以降班全員が安全に対する関心も強くなり，その取り組みも全員で真剣に考えるようになってきて，現在無災害記録時間22万時間を更新中である。

### 4 我が班における1日の主な安全活動

次に我が班の1日の安全活動を紹介しますと，特別他署と異なった活動はしてはいませんが，皆で決めたこと，守って実行しなければならないことを確実にキチンと実行すること，班員1人残らず全員が安全活動を自分のものとしてとらえることを最重点に，班全員一丸となって取り組んでいるところである。

#### (1) 始業時ミーティングと危険予知(写真-1)

前日のヒヤリ・ハットがなければ，毎朝連絡事項，当日の作業内容，作業上の危険予知などを，班長及び安全推進員が中心となり実施し，約6～7分で終了している。前日ヒヤリ・ハットがあった場合は，前日の終了時ミーティングで原因・対策を皆で確認し合い，森林官を通して「ヒヤリ・ハット報



写-1 ミーティングの実施状況

告書」を営林署に提出している。ポイントは当日の危険予知に重点を置いて実施しているのがミーティングのアクセントとなっている。

## (2) 林業体操の励行(写真-2)

始業時ミーティング終了時と午後の作業着手前に安全推進員がリーダーとなり、全員で日々確実に励行している。



写-2 林業体操の実施状況

## (3) 作業中の一声運動の実施

主として午前10時頃と午後3時頃、また、仲間が疲れたと思う頃の不定時に、皆でその日のKYのポイントを中心に仲間に声を掛け合うことにしている。

このことが、作業時の緊張を緩和し、一呼吸置くことにも通じ、さらにチームワーク形成に大きく貢献しているところである。

## (4) 終業時ミーティングと危険予知

とかく始業時ミーティングだけで終了しがちであったところであるが、その日の作業の締めくくりとして、ヒヤリ・ハットがなかったか、その箇所ではもっとどういうところに注意しなければならぬかを重点に日々5分程度でミーティングと危険予知を行っている。

その日にヒヤリ・ハットがあった場合は、原因・対策を皆で話し合い、次の日の始業時ミーティングに確認し合っている。

## 5 我が班の安全活動の特色

### (1) ヒヤリ・ハット活動の実施

ヒヤリ・ハットは、その日の終業時ミーティングの中で把握し、原因・対策を皆で話し合い、次の日の始業時ミーティング時にKYを含めてそれを確認し合っている。

さらに、発生したヒヤリ・ハットは、発生日時・場所・内容・原因・対策を「ヒヤリ・ハット報告書」にまとめ、森林官が営林署に提出している。

営林署ではその報告書について、現場でたてた対策に補強するところがあるか否かを検討し、ある場合は、それが森林官等を通して指示され、対策を更に補強するという形で実施している。

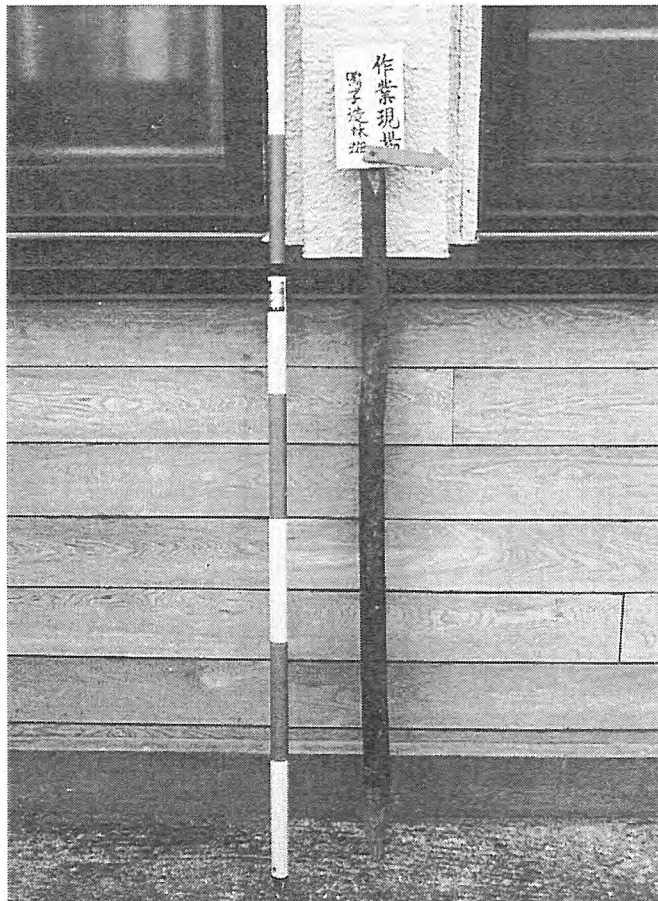
「災害はツボミのうちから摘み取ろう！」をモットーに班全員で今後も継続していく  
考えである。

(2) 安全標示板等の作成 (写真-3~4)

安全表示板については、他班で模範的な班もあることから、それを参考に、丸太の輪  
切りに安全標語を記し、注意喚起板として作成、現場の休憩所等に設置し、安全意識の  
高揚のポイントとして活用している。



写-3 安全表示板 (注意喚起版)



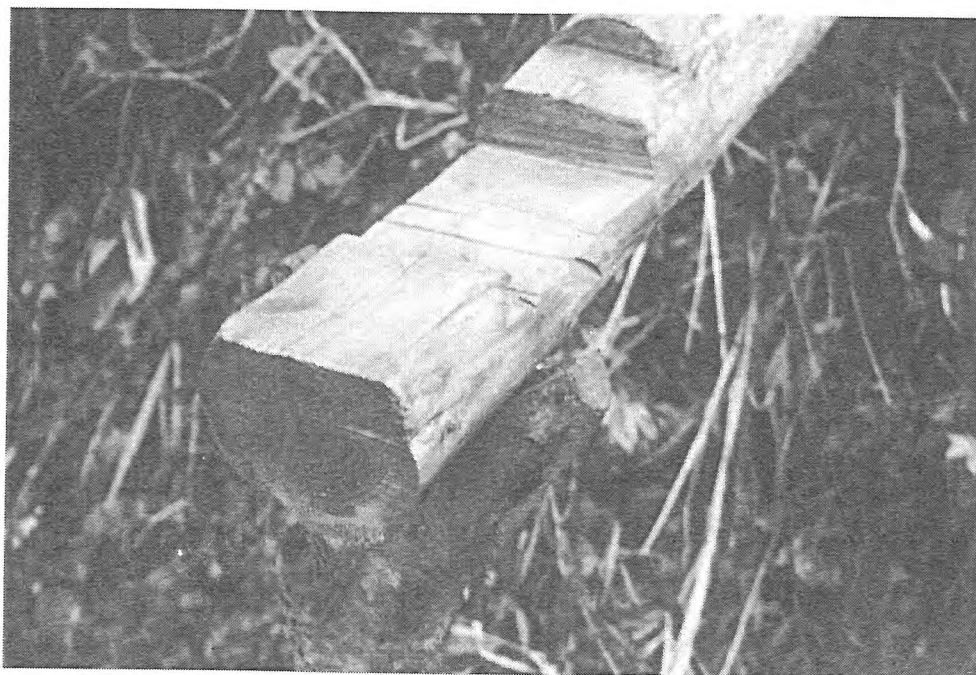
写-4 安全表示板 (作業箇所案内板)

また、営林署などが緊急時等に常に連絡がとれるようにという目的で、作業箇所案内板を作成し、作業現場の入口等に立てて、班員が安心して作業出来るようにしている。

### (3) 砥石台の作成（写真－5～6）

このような砥石台は他署でも作っているところもあると思うが、私たちは「鳴子式砥石台」と名付け、昭和58年に改良して、休憩所・作業現場に設置して現在も使用している。

この砥石台は、「砥石外しが無い」「良く研磨される」「疲れない」などの利点があり、さらに2人1組で研ぐことから班の和造りにも大いに貢献していると考えている。



写－5 鳴子式砥石台



写－6 鳴子式砥石台の使用状況

#### (4) 班独自の毎月の安全目標の確立

営林署全体の毎月の安全目標は安全衛生委員会で作成され現場に流されているが、それをより補強する観点から、当該月の主たる作業内容や作業箇所、気象条件等を念頭に入れ、安全推進員が中心となり、月始めの安全懇談会で班員全員で協議決定し、休憩所、バス等に掲示し、班員1人ひとりの安全意識の高揚に結びつけるようにしている。

#### 6 おわりに

以上我が班の安全活動の概要を発表したが、他署と比べて特別なことをやっている訳でもなく、また、たまたま幸運にも無災害が続いているだけのことかもしれない。

ただ我が班は、皆で決めたこと、守るべきことは守る、安全は班員1人残らず安全活動を自分のものとして、しっかりととらえることを最重点として安全活動を展開している。

そのためには、班の「和」が絶対必要であり、何でも言い合える職場の雰囲気作りを今まで以上に全員で育んでいくことが、今後「30万時間無災害」に向けての課題だと考えている。

現在、冬山造林事業に従事しているところであるが、この冬山事業を無災害で頑張り4月から新たな気持ちで局署の指導を受けながら「30万時間無災害」を目指して、班一丸となり安全活動に取り組んでいきたいと考えているところである。